

DEBUT 首長

津市長 前葉 泰幸氏



まえば・やすゆき 1962年津市生まれ。85年東大法卒、旧自治省入省。大臣官房総務課、宮城県庁などに勤務。2005年に総務省を退職し、宮城県知事選に出馬するが落選。外資系金融機関などを経て4月の津市長選で当選。趣味は旅行など。49歳。物をしたりといった行動ができればいいと思う。

防災計画に「津波対策編」策定 市民がとるべき行動を明記

津市 三重県の人口29万人の県庁所在地。2006年に10市町村が合併。伊勢神宮参りで栄え「伊勢は津でもつ、津は伊勢でもつ」と歌われた。

——「対話と連携」を訴えて当選したが、市政でどう実現する

これまで市民への情報提供は事業説明会など一方通行だった。市民と一緒に考えるために地域懇談会などを開いて、双方向の対話を進める。市のホームページには「市長活動日記」と別に「市長懇談記」も設けて情報発信している。行政の役割を市民が一部担うようなことを期待すべきではない。町づくりを進めるうえで、市民と行政がそれぞれ役割を分担してコラボレーションするのが望ましい。

——津市は東海・東南海・南海地震で大きな被害が想定されているが、防災対策をどう進めるのか

堤防改修が終了するのは2023年度で、それまでに地震による津波が来ないとは限らない。市の地域防災計画で「津波

対策編」を新たに策定し、津波警報が出た場合に市民がどう行動すべきかを明記する。緊急時に逃げる「津波避難ビル」をこれまでに9棟指定し、理論上は公約していた3万人の避難場所を確保したことになる。しかし、エリアの偏りなどを考えるとまだまだ不十分で、ゆとりをもって住民を収容できるようにしたい。

さらに、上れない状況になっていることが多い学校の屋上のフェンスを修理し、避難場所として使えるようにすることも考えている。

——「シャッター商店街」になっている中心市街地の活性化策は

現状は新しい店を出してもらえない状況ではないため、にぎわいを取り戻すのが先決だ。イベントで集客しても一過性の効果しかなく、商店街の振興につながらない。中央公民館と社会福祉センターの機能を中心市街地のバス停前へ移し、人の集まる場所をつくりたい。高齢者などが生涯学習の講座を受講した後に歩いて食事にいたり、買い

商店街限定の商品券を発行し、1万円で購入すれば1万1000円分使えるといったプレミアム部分は市が負担する仕組みも有効だと考えている。

——高齢化する社会に市長としてどう対応する

地域で比較的若い高齢者がより年齢の高い高齢者を介護する「見守り支援員」と呼ぶボランティアの仕組みを来年から全市で始める。津市では東京などのように年齢と共に住み替える発想がなく、住民と共に団地も「高齢化」してしまう。介護サービス付きマンションの建設を支援するなどして不動産を流動化させ、次の世代に渡るようにできないかと考えている。高齢者の足となるコミュニティーバスは民間に委託しているが、10市町村が合併した後も過去の市町村単位で運営されているため、再編して使いやすくしたい。

(聞き手は

津支局長 横田 勇人)